

若い世代の生活に関する調査(概要)

平成 29(2017)年 3 月

かつて青少年が自立するまでの成長過程モデルは、家庭や学校教育を通して行うものという社会的認識の中で、学校を卒業すると切れめなく企業等に採用され、研修や訓練を受けて職業的に自立し、新たな家族を形成して生活の自立を確立していくというものでした。

しかし、バブル経済が崩壊する 1990 年代から、青少年の自立を委ねてきた、家庭、地域、企業などの力が弱まり、社会環境が大きく変化する中で、家庭の貧困との関係や小中学校での不登校、高校中途退学、若年無業者、非正規雇用労働者などが社会問題として取り上げられるようになりました。

今回の調査は、豊中市に居住する満 15 歳から 39 歳の者及びその家族を対象に、「ひきこもり」に該当する子ども・若者の人数やそのきっかけ、必要としている支援内容などについて調査することで、「ひきこもり」を始めとする困難を有する子ども・若者への支援方策の検討につなげることを目的として、国や市の平成 22 年度調査を参考として実施しました。

(1) 若い世代の生活に関する調査 (本人票)

調査対象	豊中市内在住の満 15 歳から 39 歳までの方から無作為抽出
調査方法	調査員による訪問・ポスティング・郵送回収
調査期間	平成 28 年 1 1 月 2 2 日～平成 28 年 1 2 月 2 8 日
対象者数	4, 7 6 7 件
有効回収数	1, 4 7 5 件
有効回収率	3 0. 9 %

(2) 若い世代の生活に関する調査 (家族票)

調査対象	豊中市内在住の満 15 歳から 39 歳までの方が含まれる世帯を無作為抽出
調査方法	調査員による訪問・ポスティング・郵送回収
調査期間	平成 28 年 1 1 月 2 2 日～平成 28 年 1 2 月 2 8 日
対象世帯数	4, 7 6 7 件
有効回収数	1, 4 4 6 件
有効回収率	3 0. 3 %

(3) ひきこもり群・ひきこもり親和群の推計

15歳～39歳人口 109,370人

(全人口403,795人。平成28年10月)

1) ひきこもり群 1.63% (国調査 1.57%) [平成22市調査 2.01%]

推計 最小値 1,328人 最大値 3,731人

中間値 2,530人

2) ひきこもり親和群 5.63% (国調査 4.82%)

[平成22市調査 5.04%]

推計 最小値 3,054人 最大値 8,579人

中間値 5,816人

(4) 若い世代の生活に関する調査(個人票)の主な項目

	ひきこもり群		ひきこもり親和群	
	豊中市	国	豊中市	国
出現率	1.63%	1.57%	5.63%	4.82%
性別	男 45.8%	男 63.3%	男 47.0%	男 40.7%
	女 54.2%	女 36.7%	女 53.0%	女 59.3%
15～19歳	12.5%	10.2%	33.7%	27.3%
20～24歳	12.5%	24.5%	31.3%	24.7%
25～29歳	33.3%	24.5%	19.3%	21.3%
30～34歳	20.8%	20.4%	6.0%	18.0%
35～39歳	20.8%	20.4%	9.6%	8.7%
通学中	12.5%	10.2%	55.4%	33.3%
既卒	70.8%	63.3%	36.1%	62.0%
中退	12.5%	24.5%	7.2%	4.0%
休学中	0.0	2.0%	0.0	0.7%
中学校卒	8.3%	8.2%	7.2%	5.3%
高等学校卒(※)	50.0%	46.9%	26.5%	42.0%
専門学校卒	8.3%	12.2%	12.0%	13.3%
短大卒	4.2%	8.2%	6.0%	4.7%
大学(院)卒	25.0%	22.4%	44.6%	34.0%
その他	4.2%	2.0	3.6%	0.7%
就業	8.4%	8.2%	34.9%	54.6%
学生等	12.5%	12.2%	50.6%	32.0%
無職・主婦	54.2%	67.3%	7.2%	12.6%
無職者のうち就業経験あり	53.4%	—	50.0%	—

	ひきこもり群			
	豊中市		国	
現在の状態になった年齢	～14歳	4.2%	～14歳	12.2%
	15～19歳	33.3%	15～19歳	30.6%
	20～24歳	37.5%	20～24歳	34.7%
	25～29歳	16.7%	25～29歳	8.2%
	30～34歳	8.3%	30～34歳	4.1%
	35～39歳	0.0%	35～39歳	10.2%
現在の状態になってからの期間	6月～1年未満	0.0%	6月～1年未満	12.2%
	1～3年未満	20.8%	1～3年未満	12.2%
	3～5年未満	8.3%	3～5年未満	28.6%
	5～7年未満	25.0%	5～7年未満	12.2%
	7年以上	45.8%	7年以上	34.7%
現在の状態になったきっかけ	①人間関係がうまくいかなかった 41.7%		①不登校 18.4%	
	②病気 37.5%		①職場になじめなかった 18.4%	
	③不登校 33.3%		③就職活動がうまくいかなかった 16.3%	
	③就職活動がうまくいかなかった 33.3%		③人間関係がうまくいかなかった 16.3%	
相談意向	意向あり	54.2%	意向あり	32.7%
相談機関に対する希望	①親身に聴いてくれる 37.5%		①親身になって聴いてくれる 30.6%	
	②カウンセラーがいる 29.2%		②無料で相談できる 22.4%	
	②精神科医がいる 29.2%		③心理学の専門がいる 16.3%	
			③精神科医がいる 16.3%	
			③自宅から近い 16.3%	
相談したくない理由 (上位4項目)	①相談に行っても解決できない		①相手にうまく話せない	
	②何をきかれるか不安		②自分のことを知られたくない	
	②相手にうまく話せない		②相談に行っても解決できない	
	②お金がかかる		②お金がかかる	

(※) 定時制・通信制・サポート制含む。

(5) 今後の取組み

今回の調査により、本市における「ひきこもり」に該当する子ども・若者の現状を掴むことができました。「ひきこもり群」の推計（出現率）は1.63%となっており、内閣府の調査結果である1.57%とほぼ同じ水準でしたが、男女の比率で見ると女性が54.2%と過半数を占めるなどの特徴が現れました。

市の人口から推計値を計算すると、ひきこもり群で2,530人、ひきこもり親和群で5,816人となり、市の前回調査時から依然として支援を必要としている子ども・若者が多く存在しており、その中でも精神的、心理的にきわめて繊細であり、人間関係で多くの困難を抱えている実情などが浮き上がってきました。

豊中市では、平成27年度に豊中市子ども・若者支援協議会を設置し、豊中市若者支援構想の策定により市の若者支援に係る理念や方向性を示し、様々な機関と協働して若者支援に取り組んでまいりました。そして、平成28年度には、本調査に加え、「豊中市版子ども・若者白書」の策定に着手しており、様々な角度からのデータを集め、子ども・若者を取り巻く状況についての把握に取り組んでいます。

今後は、本調査結果及びこれまでの取組みにて得られた情報、当事者やその周囲の方からのご意見なども踏まえ、具体的な施策や取組みについて検討を行い、（仮称）豊中市若者自立支援計画を策定する予定です。